

【普通作物】の【低温】対策について

<6月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稻】（幼穂形成期～出穂期）

（１）予想される被害状況

- ① 最低気温が概ね17℃以下になると、幼穂の発育障害や不稔が生じる。
- ② 低温ではいもち病が発生しやすくなる。
- ③ 低温が長期間続くと、幼穂形成など生育が遅れる。

（２）事前対策

- ① 低温時は、できるだけ深水管理（10～15cm）とし幼穂を保護する。
この場合、水量の少ない水系では水量不足で急な深水管理が困難となるので、低温予報がでたら早めに水位を高めておく。
- ② いもち病の観察につとめ、遅れないように防除を行う。
- ③ 穂肥施用は、幼穂の伸長を確認して品種に応じて適期に行う。
※倒伏しやすいコシヒカリは幼穂が1cmになってから葉色に応じて施肥する。

（３）事後対策

- ① 幼穂形成期以降に、低温に遭う回数が多いほど被害が大きくなるので、気象情報に注意して低温時は深水管理を行う。